

# 平成 30 年度申請

キャップストーンプログラム

## 「自己点検評価説明書」

(「地域公共政策士」資格制度)

プログラム名 「キャップストーン」 プログラム

実施機関名 同志社大学

## 序章

### プログラム概要（運営・実施体制）

プログラム名	「キャップストーン」プログラム		
対応資格	キャップストーン		
EQF レベル	レベル7		
構成科目数	6科目	取得ポイント数	8
社会的認証期間	2019年4月～2026年3月末日		

実施機関名	同志社大学		
実施部門	大学院総合政策科学研究所		
プログラム実施責任者(代表者)	久保真人		
プログラム担当者	新川達郎・武蔵勝宏		
事務担当者	小川照一・岡村亮介		
事務担当者連絡先	電話番号：075-251-3860	Email : ji-sosei@mail.doshisha.ac.jp	
備考			

**更新する資格教育プログラムの修了者数**

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
修了者数	1名	0名	2名	1名	3名	4名	一名

**更新する資格教育プログラム科目の開講表**

科目名	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1 キャップストーンI－地域再生工学①－	○	○	○	○	○	○	○
2 キャップストーンI－地域再生工学②－	○	○	○	○	○	○	○
3 キャップストーンI－地域政策実践研究プログラム①－	○	○	×	×	×	×	×
4 キャップストーンII－地域政策実践研究プログラム②－	○	○	×	×	×	×	×
5 キャップストーンI－協働型地域社会のデザイン①－	○	○	○	○	○	○	○
6 キャップストーンII－協働型地域社会のデザイン②－	○	○	○	○	○	○	○

**キャップストーンフィールドの実施概要報告**

	実施概要	実施科目	様式1-5の添付資料番号
1	②実施時期、2012年度春学期 ③参加受講者数、1名	キャップストーンI－協働型地域社会のデザイン①－ (谷口知弘教授)	
2	②実施時期、2012年度秋学期 ③参加受講者数、1名	キャップストーンI－協働型地域社会のデザイン②－ (谷口知弘教授)	
3	②実施時期、2014年度春学期 ③参加受講者数、2名	キャップストーンI－協働型地域社会のデザイン①－ (谷口知弘教授)	
4	②実施時期、2014年度秋学期 ③参加受講者数、2名	キャップストーンI－協働型地域社会のデザイン②－ (谷口知弘教授)	
5	②実施時期、2016年度春学期 ③参加受講者数、1名	キャップストーンI－協働型地域社会のデザイン①－	

		(谷口知弘教授)	
6	②実施時期、2016年度秋学期 ③参加受講者数、1名	キャップストーンI－協働型 地域社会のデザイン②－ (谷口知弘教授)	
7	①実施フィールド、東京都江戸川区、さいたま市、京都市等。 ②実施時期、2016年度春学期 ③参加受講者数、2名 ③政策提言等の内容 自然(農場)を手法としたマンションコミュニティの活性化。/発酵食品(すぐき漬け)を通じた伝統農業文化・技術の継承。	キャップストーンI－地域再生工学①－ (本多幸子講師)	
8	①実施フィールド、東京都江戸川区、さいたま市、京都市等。 ②実施時期、2016年度春学期 ③参加受講者数、2名 ③政策提言等の内容 自然(農場)を手法としたマンションコミュニティの活性化。/発酵食品(すぐき漬け)を通じた伝統農業文化・技術の継承。	キャップストーンI－地域再生工学②－ (本多幸子講師)	
9	①実施フィールド、京都市・大阪府/京都市、篠山市、大阪市 ②実施時期、2017年度秋学期 ③参加受講者数、3名 ③政策提言等の内容 いけばな療法を認知症非薬物療法として確立・提唱。/エシカル消費の推進をテーマにした消費者市民教育を提言。	キャップストーンI－地域再生工学①－ (本多幸子講師)	5-1
10	①実施フィールド、京都市・大阪府/京都市、篠山市、大阪市 ②実施時期、2017年度秋学期 ③参加受講者数、3名 ③政策提言等の内容 いけばな療法を認知症非薬物療法として確立・提唱。/エシカル消費の推進をテーマにした消費者市民教育を提言。	キャップストーンI－地域再生工学②－ (本多幸子講師)	5-1
11	① 実施フィールド；京都府宇治市 ② 実施時期、2017年度春学期 ② 参加受講者数、1名 ③ 政策提言等の内容：まち歩きによるコミュニティデザインへ宇治市の隠れた名所探訪	キャップストーンI－協働型 地域社会のデザイン①－ (新川達郎教授)	5-2
12	① 実施フィールド:京都府宇治市 ② 実施時期、2017年度秋学期 ② 参加受講者数、1名 ③ 政策提言等の内容：地域文化を育むアクションプラン～ちはやぶる宇治市の魅力の共有に向けて	キャップストーンI－協働型 地域社会のデザイン②－ (新川達郎教授)	5-2

### 軽微な変更の申請状況

	申請日	申請の種別	概要
1	2016年5月17日	科目担当の変更	2016年度よりキャップストーンⅠ－地域再生工学①－、キャップストーンⅡ－地域再生工学②－の担当者を今里滋から本多幸子に変更した。
2	2018年11月	科目担当の変更	2017年度よりキャップストーンⅠ－協働型地域社会のデザイン①－、キャップストーンⅡ－協働型地域社会のデザイン②－の担当者を谷口知弘から新川達郎に変更した。

## 教育プログラムの特徴

### 資格教育プログラムの概要

地域社会の全てのセクターが公共的活動で社会的役割を果たすことが求められる協働型社会において、地域の公共的課題の解決のため産官学民の各セクターを横断して活動するマルチパートナーシップを担うことのできる地域公共人材の養成が急務となっている。そこで、同志社大学総合政策科学研究所は、地域社会の課題解決のための知識や技術、職務遂行能力を履修証明プログラムの受講によって体系的に修得した受講生が、地域社会の問題を発見する洞察力を身につけ、その具体的解決の方策を実際の地域社会のフィールドでの実践を通して企画立案・実施する構想力と行動力を獲得することを目的に、2011年度よりキャップストーンプログラムを大学院博士前期課程の正規科目として開講している。同キャップストーンプログラムでは、現場でのフィールドワーク、調査分析等のデスクワーク、クライアントや協働先への提言等のコンサルテーションの各項目をグループで実施することとしている。具体的には、フィールドワーク、デスクワーク、成果の発表においては、学習者単独ではなくチーム活動によって学習アウトカムを達成することが求められる。また、チーム活動を行うチーム内では、「キャップストーン」の資格取得希望の学習者がチームリーダーとなり、それ以外の資格取得を希望しない学習者は、サブリーダーや、リーダーとともにプロジェクトの遂行に参加し、協力するフォロワーとしての役割を分担することとする。また、地域や社会の現実の公共活動にあわせて現地調査等の活動を大学院の教育活動として実施し、その成果の公表については、プログラムの依頼先や協働先に対する学習者による政策等の提言内容として、「提言書」や「報告書」等に取りまとめが必要である。なお、こうした「提言書」や「報告書」等の提言内容は、外部者の意見を受け、その評価を受けることとしている。

こうした理論と実践の双方を相互に関連付けながら実践的課題学習に取り組むことで、「地域社会の改革や発展のための計画やプログラムを責任をもって策定し、実行することができる実践的能力を獲得すること」を学習アウトカムの到達目標としている。受講生は、春学期・秋学期通年でキャップストーン科目を選択履修するが、キャップストーンは、実践的課題学習を実施するプロジェクト系科目であるため、本キャップストーンプログラムでは、学生が履修すべき総学習時間数を春・秋学期合計で、4単位(8ポイント)、80時間以上の履修時間が確保されていることを修了要件としている。

### 特色ある取り組み（自由記述）

本キャップストーンプログラムは、協働型社会においてマルチパートナーシップを担うことのできる地域公共人材を育成することを目的とし、組織やプロジェクトのリーダーとして地域社会の課題の発見や解決のための企画立案・実施に主導的な役割を担うことのできる実践的能力の獲得を学習アウトカムの到達目標としている。そこで、本プログラムでは、複数の学生がグループを組み、履修証明プログラム(政策士プログラム 20ポイント)の履修によって習得した様々な知識や技術、能力を活用し、具体的な地域社会の公共的課題の解決を目指して政策提言や実践的活動を行うプロジェクトを受講生の選択または受講生自身の開拓のいずれかの方法で、フィールドワークを中心に展開する方法で実施している。

キャップストーンは、地域公共政策士の資格取得のための「総仕上げのプログラム」として位置づけられるものである。そのため、本研究科では、キャップストーンの登録条件として、「履修証明プロ

グラムを受講し履修証明を取得済みまたは当該年度中に取得見込みの者」であることを明示し、受講生を募集している。ただし、2013年度からは、地域公共政策士の資格取得を目的としない者で、授業担当者の許可を得た場合には、履修証明プログラムの受講の有無にかかわらず、前期課程または後期課程もしくは一貫制博士課程の最終年次での登録を認めることを付記し、キャップストーンをチームによる活動として実施することが可能な受講生数を確保することとしている。キャップストーンの取り組みにあたって、事前の研修や事後の評価において、学習者全員が集合する共通時間を設けているが、その活動の主体は、地域の公共活動の現場にあり、各自が、それぞれの選択したフィールドワークにおいて課題の発見と整理、企画案の検討・実施、政策提言の作成と外部評価の各プロセスにおいて、文字通り即戦力として現場に参加し、活躍することが期待されている。

また、キャップストーンは、教員によってフィールドの場が提供されるものの、そこにおける課題の構築と、調査内容、実施方法、計画内容などの進行の管理は、受講生自らが設定して、実際に実施、活動することが求められる。そこで、本キャップストーンプログラムでは、教員がテーマ設定を行いつつ、その活動を学生主体に、教員、NPO、行政機関等との連携によって推進する方法を採用している。

これまで、2011年度の試行期間から2017年度の修了時点まで、12名の修了生を輩出している。その活動のフィールドは、教員側が設定し、提供した協働先、クライアント先として、「アーティスト・イン・レジデンス京町家事業」、「京都市西京区の区民主体の地域づくり推進事業」、「嵯峨・嵐山地域インバウンド観光地域プランディング事業」、「京町家保全活用プロジェクト」、「京極小学校区・出町商店街界隈地域メディア事業」、「待賢小学校区（上京区）高齢者支援活動」など多種多様な公共的活動や市民活動に及び、学習者が地域の問題を発見する洞察力を身につけ、具体的な解決の方策を企画・実施する力を養成することに貢献してきた。また、学習者が独自に開拓したフィールドとしては、「木津川右岸運動公園環境教育拠点づくりプロジェクト」、「農業体験を通じた都市型マンションのコミュニティ構築」、「発酵食品（すぐき漬け）を通じた伝統農業文化・技術の継承」、「いけばな療法による認知症非薬物療法の確立」、「エシカル消費の推進をテーマとした消費者市民教育」、「宇治市の隠れた名所探訪まち歩きによるコミュニティデザイン」など、学習者のこれまでの経験やネットワークを反映した地域活動の実践に特色がある。

このように、履修証明プログラム（政策士プログラム）によって地域社会の課題解決のための知識や技術、能力を体系的に習得した受講生が、キャップストーンへの主体的な取り組みを通じて、地域社会の問題を発見する洞察力を身につけ、その具体的な解決のための方策を実際の地域社会のフィールドでの実践を通して企画立案・実施する構想力と行動力を獲得することに一定の成果を上げているといえよう。特に、キャップストーンの取り組みを通じて、問題の所在を把握する能力、課題解決のためのプロセスの構築力、事業やプログラムを企画立案し、実行する構想力や行動力が身についたとの評価が可能であろう。また、複数チームでの取り組みや、地域の団体や行政機関との協働を通じての活動は、参加したメンバー各自のコミュニケーション能力や人間関係形成、チームワークや課題に対する分析力、事案に対する柔軟性や適応性といったスキルの習得にも寄与することとなっている。いずれの取り組みでも、学習者は、持続的な地域まちづくりの可能性を住民や地域団体、事業者、NPO、行政などの多様な主体間の相互行為を伴う協働型の実験的実践活動を通して探っており、その解決のための実践力を修得することを可能としてきたと評価できる。

## 1 キャップストーンプログラムの目的・教育目標・学習アウトカム

### 1-1-I. 目的・教育目標

地域社会の全てのセクターが公共的活動で社会的役割を果たすことが求められる協働型社会において、地域の公共的課題の解決のため産官学民の各セクターを横断して活動するマルチパートナーシップを担うことのできる地域公共人材の養成が急務となっている。そこで、同志社大学総合政策科学研究所は、協働型社会においてマルチパートナーシップを担うことのできる地域公共人材を育成することを目的に、複数の学生がグループを組み、履修証明プログラム(政策士プログラム 20 ポイント)の履修によって習得した様々な知識や技術、能力を活用し、具体的な地域社会の公共的課題の解決を目指して政策提言や実践的活動を行うプロジェクト群によって構成されるキャップストーンプログラムを大学院生及び一般社会人向けに提供することとした。本プログラムでは、地域社会の課題解決のための知識や技術、能力を履修証明プログラムを通じて体系的に習得した受講生が、地域社会の問題を発見する洞察力を身につけ、その具体的解決のための方策を実際の地域社会のフィールドでの実践を通して企画立案・実施する構想力と行動力を獲得することを教育目標としている。

添付資料 1-1 : 2018 年度「キャップストーン」受講申請要項(在学生用) (p.1-3)

添付資料 1-2 :「総合政策科学研究所履修の手引き 2018」(p.124-125)

添付資料 1-3 : 地域公共政策士取得を目指して(同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究所作成リーフレット)

### 1-1-II. 資格教育プログラムの学習アウトカム

達成目標	地域社会の改革や発展のための計画やプログラムを責任を持って策定し実行することができる	
知識	複雑な背景や文脈からなる課題に対して、様々な理論・技術・活動の再構成による新たな知見を獲得している	
技能	問題の解決に必要な様々な方策や技術及び知見の特定と、それらの組み合わせ・最適化・実践	
職務遂行能力	地域社会における政策提言及びプログラム運用を企画・調整・主導することができる	

### 1-1-III. 資格教育プログラムで育成する人材像

同志社大学大学院総合政策科学研究科は、地域公共人材の育成をミッションとして、地域の公共的課題を具体的に解決するための政策の企画立案や実施、公共的活動のコーディネートを適切に運用・実践する人材を育成することを目的とする「地域公共マネジメント」履修証明プログラム及びわが国の食農分野における公共政策のイノベーションやこの分野の社会的課題解決に貢献するソーシャル・ビジネス等を担う有為の人材を育成することを目的とする「食農政策士」履修証明プログラムを設置し、地域公共政策士(レベル7)の資格教育プログラムを展開してきた。

本キャップストーンプログラムは、複数の学生がグループを組み、履修証明プログラム(政策士プログラム 20 ポイント)の履修によって習得した様々な知識や技術、能力を活用し、具体的な地域社会の公共的課題の解決を目指して政策提言や実践的活動を行うプロジェクト群によって構成される。こうしたプログラムの実施を通じて、協働型社会において地域の公共的課題の解決のため産官学民の各セクターを横断して活動するマルチパートナーシップを担うことのできる地域公共人材を育成することを目的とするものである。すなわち、本キャップストーンプログラムは、地域公共政策士資格教育プログラム(レベル7)の履修を経て、地域公共政策士の資格取得のための「総仕上げのプログラム」として位置づけられるものである。そのため、本キャップストーンプログラムでは、地域社会の課題解決のための知識や技術、能力を「地域公共マネジメント」または「食農政策士」履修証明プログラムを通じて体系的に習得した受講生が、地域社会の問題を発見する洞察力を身につけ、その具体的解決の方策を実際の地域社会のフィールドでの実践を通して企画立案・実施する構想力と行動力を獲得することを教育目標としている。

こうした本キャップストーンプログラムの目的と教育目標を実現するため、育成すべき能力の基準として、学習アウトカムを作成し、プログラム担当者の共通理解を図ることとしている。学習アウトカムを具体的に詳述すると、まず、本キャップストーンプログラムでは、組織やプロジェクトのリーダーとして地域社会の課題の発見や解決のための企画立案・実施に主導的な役割を担うことのできる実践的能力の獲得を到達目標としている。そのためには、学習者が、複雑な背景や文脈からなる課題に対して、様々な理論・技術・活動の再構成による新たな知見を獲得し(知識)、問題の解決に必要な様々な方策や技術及び知見の特定と、それらの組み合わせ・最適化・実践ができ(技能)、地域社会における政策提言及びプログラム運用を企画・調整・主導することができる(職務遂行能力)ように学習アウトカムを設定している。

こうしたプログラムの実施によって、「地域社会の改革や発展のための計画やプログラムを責任をもって策定し、実行することができる」実践的能力を備えた協働型社会の担い手を育成する。

添付資料1-3: 地域公共政策士取得を目指して(同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科作成リーフレット)

### 1-1-IV. プログラムの広報

本キャップストーンプログラムは、地域公共政策士資格の付与のための「キャップストーン」に位置づけられるものであると同時に、大学院博士前期課程の正規科目として開講されているものである。したがって、学内の学生に対しては、総合政策科学研究科の入学式後のオリエンテーションにおいて、地域公共政策士取得を目指してと題するリーフレットを配布し、専攻教務主任、事務室から説明を実施し、履修登録を推進している。また、キャップストーンプログラムの詳細について、研究科院生向

けに「履修の手引き」に記載し、履修登録の具体的方法を明示している。さらに、本学では、同キャップストーンプログラムを正規の本学の大学院生のみならず、学外の学生や一般社会人にも開放している。具体的には、同志社大学の公式 HPにおいて、生涯学習のコーナーで、履修証明プログラム、キャップストーンの受講申請要項を学外の学生、社会人向けに公表、募集(科目等履修生として扱いとなる)している。

募集要項においては、キャップストーンが、地域公共政策士資格取得のための必須科目であり、大学院の正規科目として開講されること、及びその実施方法として、「キャップストーンでは、フィールドワーク、デスクワーク(調査研究等)、成果の発表(調査結果、政策提言等の現場でのプレゼンテーション)の三つを行うことが要求され、成績評価は最終的な成果物(報告書、プレゼン等)の内容だけでなく、フィールドワーク、デスクワークなどでのプロセスを総合的に評価します。できるだけグループワークを基本としていますが、グループワークが難しい社会人の場合には、職場での活動歴などを考慮する場合があります」との表記で、具体的な一般条項について周知を図っている。個々の科目(プロジェクト)の詳細については、シラバスにおいて担当教員によって明示されている。

また、地域公共政策士取得を目指してと題する同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科作成リーフレットには、本キャップストーンプログラムの目的のほかに、到達目標、知識、技術、職務遂行能力のそれぞれの学習アウトカム(前回申請時の内容で記載。認証後に今回申請時のものに変更予定)を明記し、オリエンテーション時等に周知、広報を行っている。

なお、本資格教育プログラムの各開講科目の詳細については、同志社大学の HP 上で在学生及び科目等履修生向けに(学外からのアクセスも可能)シラバスとして公表されている。

添付資料 1-2 : 「総合政策科学研究科履修の手引き 2018」(p.124-125)

添付資料 1-3 : 地域公共政策士取得を目指して(同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科作成リーフレット)

添付資料 1-4 : 「キャップストーン」受講申請要項(一般用)

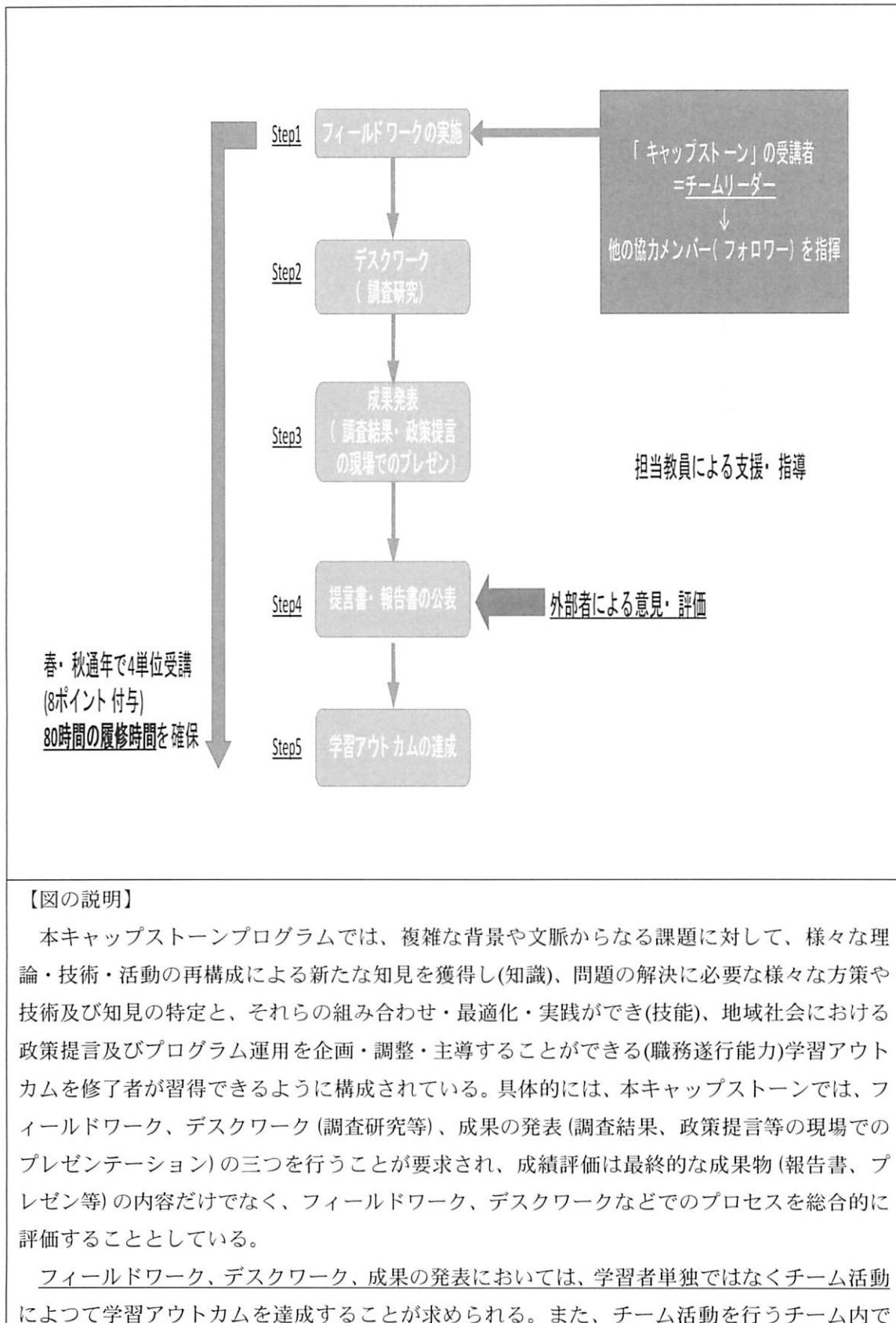
[https://www.doshisha.ac.jp/admissions\\_continuing/graduate/policy\\_studies/capstone.html](https://www.doshisha.ac.jp/admissions_continuing/graduate/policy_studies/capstone.html)

## 2 資格教育プログラムの内容

### 2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目

構成科目名		担当者名	ポイント	履修時間	開講時期	プログラム内における構成科目の位置づけ
1	キャップストーンI－地域再生工学①－	本多幸子	4	40時間	前期・後期・通年集中・不定期・その他	現地調査等の活動をチームで実施し、現実の問題に対して提言を行う
2	キャップストーンI－地域再生工学②－	本多幸子	4	40時間	前期・後期・通年集中・不定期・その他	現地調査等の活動をチームで実施し、現実の問題に対して提言を行う
3	キャップストーンI－地域政策実践研究プログラム①－	武藏勝宏	4	40時間	前期・後期・通年集中・不定期・その他	現地調査等の活動をチームで実施し、現実の問題に対して提言を行う
4	キャップストーンII－地域政策実践研究プログラム②－	武藏勝宏	4	40時間	前期・後期・通年集中・不定期・その他	現地調査等の活動をチームで実施し、現実の問題に対して提言を行う
5	キャップストーンI－協働型地域社会のデザイン①－	新川達郎	4	40時間	前期・後期・通年集中・不定期・その他	現地調査等の活動をチームで実施し、現実の問題に対して提言を行う 2021年度より、本科目を廃止し、キャップストーンI－自治体の実践的課題の探索と提言①－を追加し、野田遊が担当者となる。プログラム内における構成科目の位置づけに変更はない。
6	キャップストーンII－協働型地域社会のデザイン②－	新川達郎	4	40時間	前期・後期・通年集中・不定期・その他	現地調査等の活動をチームで実施し、現実の問題に対して提言を行う 2021年度より、本科目を廃止し、キャップストーンI－自治体の実践的課題の探索と提言②－を追加し、野田遊が担当者となる。プログラム内における構成科目の位置づけに変更はない。

## 2-1-II. キャップストーンの設計



は、「キャップストーン」の資格取得希望の学習者がチームリーダーとなり、それ以外の資格取得を希望しない学習者は、サブリーダーや、リーダーとともにプロジェクトの遂行に参加し、協力するフォロワーとしての役割を分担することとする。また、キャップストーンでは、地域や社会の現実の公共活動にあわせて現地調査等の活動を大学院の教育活動として実施し、その成果の公表については、プログラムの依頼先や協働先に対する学習者による政策等の提言内容として、「提言書」や「報告書」等に取りまとめることが必要である。なお、こうした「提言書」や「報告書」等の提言内容は、外部者の意見を受け、その評価を受けることとしている。

以上のキャップストーンの各段階における教員の役割は、依頼先、協働先とのコンタクトや調整に始まって、学習者のフィールドワークやデスクワークの企画立案についての助言や適切な指導、成果の発表における助言指導や講評など、学習者の主体的な学習を全面的に支援、指導する形で実施される。

こうした理論と実践の双方を相互に関連付けながら実践的課題学習に取り組むことで、「地域社会の改革や発展のための計画やプログラムを責任をもって策定し、実行することができる実践的能力を獲得すること」を学習アウトカムの到達目標としている。受講生は、春学期・秋学期通年でキャップストーン科目を選択履修するが、キャップストーンは、実践的課題学習を実施するプロジェクト系科目であるため、大学の通常の講義での履修半期 2 単位(15 コマ・実施時間 22.5 時間)×2=45 時間に加えて相当な特別の学習が要求される。そのため、本キャップストーンプログラムでは、学生が履修すべき総学習時間数を春・秋学期合計で、4 単位(8 ポイント)、80 時間以上の履修時間が確保されていることを必要としている。

なお、社会人の受講にも配慮し、主として平日夜間、土曜日、集中講義等の開講によって学習時間の柔軟化を図っている。

添付資料 1-1：2018 年度「キャップストーン」受講申請要項(在学生用) (p.1-3)

添付資料 1-2：「総合政策科学研究科履修の手引き 2018」(p.124-125)

添付資料 1-3：地域公共政策士取得を目指して(同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科作成リーフレット)

## 2-1-III. キャップストーン内容の周知

本キャップストーンの募集方法は、学内の受講生に対しては、入学時のオリエンテーションに際して周知を図っている。また、学外者に対しては、インターネット上の研究科 HP を通じて広く募集を行っている。受講生の対象は、同志社大学院生に関しては、「履修の手引き等に、2013年度より、「履修証明プログラムを受講して履修証明を取得済みである者、または、その年度内に取得見込みである者。ただし、地域公共政策士の資格取得を目的としない者で、授業担当者の許可を得た場合には、履修証明プログラムの受講の有無にかかわらず、前期課程または後期課程もしくは一貫制博士課程の最終年次での登録を認める」ことを明記し、科目等履修生については受講申請要項に「履修証明を取得済みまたは取得見込みの者であること」を明記し、その対象を明示している。同募集要項においては、キャップストーンが、地域公共政策士資格取得のための必須科目であり、大学院の正規科目として開講されること、及びその実施方法として、「キャップストーンでは、フィールドワーク、デスクワーク（調査研究等）、成果の発表（調査結果、政策提言等の現場でのプレゼンテーション）の三つを行うことが要求され、成績評価は最終的な成果物（報告書、プレゼン等）の内容だけでなく、フィールドワーク、デスクワークなどでのプロセスを総合的に評価します。できるだけグループワークを基本としていますが、グループワークが難しい社会人の場合には、職場での活動歴などを考慮する場合があります」との表記で、具体的な受講内容について周知を図っている。受講申請要項、シラバスとともに、同志社大学の HP 上で公開し、在学生、科目等履修生向けに、だれでもアクセス可能な方法で公表を行っている。

添付資料 1-2：「総合政策科学研究科履修の手引き 2018」(p.124-125)

添付資料 1-3：地域公共政策士取得を目指して（同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科作成リーフレット）

添付資料 1-4：「キャップストーン」受講申請要項（一般用）

[https://www.doshisha.ac.jp/admissions\\_continuing/graduate/policy\\_studies/capstone.html](https://www.doshisha.ac.jp/admissions_continuing/graduate/policy_studies/capstone.html)

## 2-2. キャップストーンの教育方法

本キャップストーンプログラムでは、「地域公共政策士」育成のためのキャップストーンの目的と教育目標を実現するため、学習アウトカムを作成し、プログラム担当者の共通理解を図ることとしている。学習アウトカムを具体的に詳述すると、まず、本キャップストーンプログラムでは、組織やプロジェクトのリーダーとして地域社会の課題の発見や解決のための企画立案・実施に主導的な役割を担うことのできる実践的能力の獲得を到達目標としている。そのために学習者は、複雑な背景や文脈からなる課題に対して、様々な理論・技術・活動の再構成による新たな知見を獲得し（知識）、問題の解決に必要な様々な方策や技術及び知見の特定と、それらの組み合わせ・最適化・実践ができ（技能）、地域社会における政策提言及びプログラム運用を企画・調整・主導することができる能力（職務遂行能力）について習得

することが求められる。

学習アウトカムを達成していることを証明するために、学習者が満たすべき標準としては、知識に関して政策科学やソーシャル・イノベーションの応用的知識に基づいて地域社会が直面する課題の発見や解決のための手法を総合的に理解できること。技能に関して地域社会が直面する課題を発見し、その課題解決の方策を高度な専門知識に基づいて提案できること。さらに職務遂行能力について、地域社会が直面する課題の解決を具体化するための活動を産官学民のセクターを横断して実施、コーディネートすることができるなどを設定して教育を実施している。

以上のキャップストーンプログラムの共通基準のもとで、各科目の教育方法の詳細については、下記の通りとなっている。

地域再生工学①②では、実際に地域に入り、そこで地域力再生のために活動している地元住民・団体、NPO、行政機関とその職員等と協働しながら、地域再生の方途を実践的な地域貢献活動を通じて、探究する。これまでのキャップストーンでは、受講生自らが開拓したフィールドにおいて、地域の抱える様々な問題を発見し、その解決のためのプログラムを企画実践し、地域の住民やステークホルダーとの協働のもとで、社会実験の手法を通じて具体的な取り組みを検証する活動が展開してきた。

地域政策実践研究プログラム①②では大学院生もしくは科目等履修生をリーダーとして、キャップストーンの資格取得を目的としない学部生等をサブリーダーやフォロワーとしてチーム活動を通じて実施される。そのため、指導教員の事前の指導を踏まえて、クライアントとの連携や政策提言学習をしっかりと分担できるようなチームを初期の段階で形成する。指導教員のネットワークや公募等を通じて、クライアントを毎年探し、選定後、クライアントからの依頼にもとづく公共的活動としてキャップストーンを実施する。フィールドの関係者への面接を通じての現状の把握、問題発見と課題解決の仮説検討、ワークショップなど協働型活動の企画検討、フィールドワークや協働型調査研究の実施・評価、地域の問題および解決案の発表とクライアントである地域・協働先からの評価及び自己評価を行うこととしている。

協働型地域社会のデザイン①では、地域社会において課題となっている具体的な争点について、その問題の当事者からの要請をベースにして、調査研究を行い、その成果を具体的に当事者に対して政策提案するなどして、その報告や提案への評価を受けることがこのプログラムの基本である。当該課題の背景を調査検討し、その問題の背景を分析し、課題解決のための選択肢を考案し、その選択肢のそれぞれの利害得失を明らかにして、提案を提示する。この一連の作業を、受講生のチームで実施することとする。特に課題の抽出、分析、それに基づく暫定的な選択肢の提示をもってその成果とする。協働型地域社会のデザイン②では、キャップストーンⅠの成果を受けて、地域政策の提案の完成を目指し、地域からの問題提起を受けて、調査研究を重ねる。そのプロセスでの評価を繰り返しながら、より良い政策選択をしていく作業の手順を学ぶ。これらの作業はチームワークによるものであり、現地との協働や受講生相互の協働を進め、受講生のそれぞれの能力を最大限活かす方法を合わせて学ぶ。

以上のいずれのプログラムにおいても、学習のプロセスの最後には提言・政策提言のとりまとめを行い、報告会等の形で公表をし、提言内容について連携パートナーやクライアントから評価やフィードバックを受ける機会を保証している。

\*添付資料 1-2 「総合政策科学研究科履修の手引き 2018」(pp.124-125)

添付資料 2-1 : シラバス(同志社大学 HP キャップストーン)

### 2-3. 提言書等のとりまとめ

各キャップストーンプログラムでは、教員側が設定した依頼先または協働先とのキャップストーンや、受講生各自が独自に開拓したフィールドでのキャップストーンが展開されてきたが、いずれの場合も、教員の指導の下での共同学習(演習形式)と現地でのフィールドワーク、チームによるデスクワーク(グループ学習)を中心とする調査研究の組み合わせによって、提言書の取りまとめが実施される。

地域再生工学①②では、事前の共同学習(地域との連携や協働の方法とスキル)を踏まえて、各自が設定したフィールドに参加し、地域の住民やステークホルダーとの協働による問題解決のための取り組みが実践される。こうした活動の記録は、参与観察や実験結果として記録に取りまとめられる。活動の成果については、社会実験の検証結果として、報告書の形で取りまとめられ、現地でのワークショップや成果報告会の形で発表される。

地域政策実践研究プログラム①②においては、大学院生・大学院科目等履修生をリーダーとして学部生を含むチームによって学習者を構成していることに鑑み、担当教員が学習者の専門性を考慮したクライアント(自治体や非営利組織など)と政策提言テーマを毎年新たに探し選択する。担当教員の指導を受けて、クライアントを訪問して意見を聴取し、クライアントが必要とする政策提言になっているかを絶えず確認する。そのうえで、クライアントに対して現地での政策提言報告会を実施する。

協働型地域社会のデザインでは、調査案件の確認と現状分析、現地調査と解決策の検討討論、現地報告会と評価のワークショップ、報告と討論を踏まえて、最終報告書の作成発表が行われる。

以上のすべてのキャップストーンにおいて、提言・政策提言の取りまとめプロセスでは、当事者である外部の関係者の意見を聞くことが盛り込まれており、また提言・政策提言の報告会を通じて、提言内容についての協働先やクライアントからの評価やフィードバックを受ける機会を保証している。

### 2-4. 開講形態

本キャップストーンプログラムでは、本研究科院生以外にも、社会人や他大学大学院在籍者などキャップストーンに関心を持つ幅広い学習者を科目等履修生として受け入れることを想定している。そのため、昼間時間に講義の開講時間が集中しないように、5・6・7時間目の夜

間授業や土曜日の授業、集中講義形式の授業を組み合わせて履修の便宜を図っている。なお、フィールドワークの実施に際しては、原則として集中講義形式をとり、担当教員の指導の下で、学習者が依頼先または協働先に出向く形で現地、現場において実施される。以上の開講形態の詳細については、研究科入学時のオリエンテーションや、キャップストーン開講初回のオリエンテーションにおいて、学習者に対して周知、説明を行っている。

添付資料 1-1 : 2018 年度「キャップストーン」受講申請要項(在学生用) (p.1-3))

添付資料 1-4 : 「キャップストーン」受講申請要項(一般用)

[https://www.doshisha.ac.jp/admissions\\_continuing/graduate/policy\\_studies/capstone.html](https://www.doshisha.ac.jp/admissions_continuing/graduate/policy_studies/capstone.html)

添付資料 2-2 : 2018 年度総合政策科学研究科時間割

### 3. 学習効果の測定

#### 3-1- I . 成績評価方法と学習者への明示

本キャップストーンプログラムの成績評価方法は、キャップストーン担当教員が設定した評価項目にしたがって評価が決定され、その基準はシラバスにおいて明示されている。例えば、キャップストーン(地域政策実践研究プログラム)では、ワークショップやフィールドワークなど協働型調査研究の実施と地域の問題および解決案の発表に加えて、地域・協働先からの評価及び自己評価が求められ、その成績評価については、授業への出席、地域調査活動への参加などの態度(積極性)や、活動計画も含めた調査活動報告(記述の工夫と問題発見の洞察力及び構想力を評価)の各項目を評価基準として総合的に行われる。これらの評価基準は他のキャップストーンプログラムにおいても、各科目別にシラバスに明示され、当該評価の基準及び方法に基づき、学習の成果に対する評価、ポイント認定が行われている。

各科目共通の成績評価点については、履修証明プログラムの受講者または受講していないものにかかわらず、研究科として共通の基準で評価される。研究科の評価基準は、A+:4.5(100 ~95 点に相当)、A:4.0(94~90 点に相当)、B+:3.5(89~85 点に相当)、B:3.0(84~80 点に相当)、C+:2.5(79~75 点に相当)、C:2.0(74~70 点に相当)、F:0.0(69~0 点に相当)であり、C 評価以上を合格として 2 単位(キャップストーンとしては 4 ポイント)が各科目について付与される。

なお、受講生からは、キャップストーン履修後の成果報告の一環として、A4 用紙 1 枚程度の実施概要報告を研究科事務室に提出を求め、外部に対して公表可能な形で、記録として 10 年間保存することとする。

\* 添付資料 3-1 「総合政策科学研究科履修の手引き 2018」(pp.30-31)

添付資料 2-1 : シラバス(同志社大学 HP キャップストーン)

#### 3-1- II . ポイント認定の基準

本キャップストーンプログラムでは、「3-1- I . 成績評価方法と学習者への明示」で説明したおり、科目担当者によって、A から F の 5 段階の成績評価が行われる。合格のためには、C 評価以上が必要であり、合格した場合には、本プログラムの修了に必要なポイントが、各科目 2 ポイント(2 単位に相当)として付与される。本プログラムの修了には、合計 8 ポイントが必要であり、同一教員の科目を通年で履修し、計 8 ポイントが認定されることで、地域公共政策士のキャップストーンプログラムの認定を満たすことができる。

\* 添付資料 3-1 「総合政策科学研究科履修の手引き 2018」(pp.30-31、pp.124-125)

添付資料 2-1 : シラバス(同志社大学 HP キャップストーン)

#### 3-2. 学習アウトカムを評価する基準と方法

学習者の学習アウトカム達成度を測定するために、キャップストーンプログラム修了予定

者を対象に、推奨モデルの一部を活用した方法をとることとする。

### 1) アンケートの実施

本プログラムの修了予定者に対して、下記の質問内容によるアンケートを実施する。アンケートは、プログラム全体で学習アウトカムとして設定した要素が、どの程度、学習者に身についたかを確認するためにおこなうものである。

#### アンケートの質問項目

1(知識) キャップストーンプログラムを修了して、複雑な背景や文脈からなる課題に対して、様々な理論・技術・活動の再構成による新たな知見がどのくらい身についたか？

2(技能) キャップストーンプログラムを修了して、問題の解決に必要な様々な方策や技術及び知見の特定と、それらの組み合わせ・最適化・実践できる技能がどのくらい身についたか？

3(職務遂行能力) キャップストーンプログラムを修了して、地域社会における政策提言及びプログラム運用を企画・調整・主導することができる職務遂行能力がどのくらい身についたか？

4(総合的な到達目標) キャップストーンプログラムを修了して、地域社会の改革や発展のための計画やプログラムを責任をもって策定し、実行することができる実践的能力がどのくらい身についたか？

回答は、1.とてもよく身についた、2.身についた、3.あまり変わらない、4.変わらないの選択肢から一つを選ぶ方式とする。

### 2) アンケートの集計とレーダーチャートの作成

アンケートの結果については、現段階では修了者数が限定的であるため、受講生ごとの振り返りとして利用する。修了者数が一定の規模に達した段階で、アンケート結果をスコア(4段階評価)に割り振り、スコア平均値を算出する。スコア平均値を「知識」、「技能」、「職務遂行能力」、「総合的な到達目標」の各項目に対応するレーダーチャートとして作成し、学習者の全体的な学習アウトカムの達成度として測定することとする。

### 3) 学習アウトカムの評価結果の活用

アンケートは、年度ごとに実施し、学習アウトカムのどの部分が達成され、また、未達成であるかをエビデンスとして活用し、科目の再編成や、実施方法の改善、見直しに反映させていくこととする。アンケート結果の検討は、大学院教務入試検討委員会に付議し、教職協働によるコンセンサスを得ながら、改善につなげていく。また、外部機関に対しても、評価結果を開示し、内容の改善に協力を仰ぐことしたい。

添付資料 3-2：「キャップストーンプログラム」における学習アウトカムに関するアンケート  
(案)

## 4. 資格教育プログラムの管理・運営体制

### 4-1. 管理・運営体制

本キャップストーンプログラムの実施に際しては、専任教員及び任期付き教員計2名が、地域公共人材大学連携事業の運営協議会及び幹事会に出席し、連携各校との連絡調整に当たるとともに、そこで合意事項を踏まえたキャップストーンプログラムの企画運営や管理・改善について、学部研究科主任会に常時報告し、その承認を得る手続きをとっている。この学部研究科主任会を決定機関として、キャップストーンプログラムの運営は、専攻教務主任及びキャップストーンプログラム担当責任者のもとで、事務組織のサポートを得て実施されている。運営の実質的なサポートを担当する事務組織としては、学部研究科事務長及び主にキャップストーンプログラムや科目等履修生等を担当する専任の事務職員を配置しており、教員・職員の連携のもとで、研究科として本キャップストーンプログラムを継続的にかつ円滑に実施していくための体制を整備している。

なお、キャップストーンプログラムの自己点検評価をも行う組織として、研究科専攻主任、プログラム担当者、科目担当者をメンバーに含む大学院教務入試検討委員会を研究科委員会の決定によって設置し、随時、キャップストーンプログラムの推進状況とその改善のための点検評価を行う体制を整備している。

### 4-2. 科目内容の点検・改善

本キャップストーンプログラムのカリキュラムの見直しについては、プログラム担当者、科目担当者によって、一年間の実績を踏まえた次年度のカリキュラム変更の検討を行い、その結果を、専攻教務主任を通じて学部研究科主任会に提案し、同協議を経て、研究科委員会で決定することとしている。各年度における検討結果を踏まえた科目の追加変更については、軽微な変更として地域公共人材開発機構事務局に届出られている。今年度についても、大学院教務入試検討委員会の検討のもとに、更新するプログラムの科目構成を検討し、基本的に現状のキャップストーンプログラムの開講科目を踏襲するとともに、2020年度末に定年となる教員の科目担当補充を見越して、2019年度から新規開講科目2科目をキャップストーンプログラムに追加することを決定した。また、更新する学習アウトカムの決定についても、学部研究科主任会の審議を経て、2018年11月の研究科委員会で決定を行った。今後は、更新するキャップストーンプログラムの学習アウトカムの評価結果をアンケートによって分析し、大学院教務入試検討委員会等に付議し、教職協働によるコンセンサスを得ながら、改善につなげていくこととする。

また、シラバスの見直しについても、キャップストーンプログラムの学習アウトカムの基準に照らし適切な内容となっているかを事務担当者が確認し、必要があれば見直しを行うように担当教員と相談することとする。加えて、本研究科では、全学的なFD検討委員会の方針のもとに、シラバスの記載内容の基準を科目担当教員に指示し、各教員によって12月下旬を締

め切りとして次年度のシラバスの入力が行われている。同シラバスについては、教務主任により、その記載内容の点検を行ったうえで、3月下旬にHP上に全て公開され、受講者の便宜を図っている。

#### 4-3. 学習者からの異議申立

学習評価の公平性・厳格性を担保するため、同志社大学では、全学的にクレーム・コミッティ制度を設けている。同制度では、受講している科目的授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、総合政策科学研究科事務室に受講生から直接、相談することとしている。受講生からの申し立てを受けて、研究科のクレーム・コミッティ(教務担当教員と事務職員で構成)が授業担当者から事実関係を調査し、原因や対策について質問者本人に対して回答する手続をとっている。なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が授業担当者に明かされることではなく、また相談によって決して不利益を被ることはないことを明示している。

また、個々の科目的成績評価の結果について疑問がある場合は、受講生は成績評価についての調査依頼を、事務室を通じて担当教員に提出することができる。担当教員は、同調査依頼を受けて、評価を改めて確認し、その結果については、事務室を通じて文書等で受講生に回答される。調査の結果、成績評価に誤りがあった場合は、成績の訂正が行われる仕組みを取っている。

\*添付資料4-1「総合政策科学研究科履修の手引き2018」(p.30)

### 5 教員及び講師

#### 5-1 教員及び講師の構成

2019年度より本キャップストーンプログラムの開設科目6科目のうち、4科目は、いずれも本学の専任の教授から構成されており、また、嘱託講師が担当する2科目の教員も学位を取得し、実務の分野で優れた業績を有することから、本プログラムの科目を構成する教員団の専門的能力は十分にあるといえる。また、2021年度より本キャップストーンプログラムに追加して開設する2科目の担当者も本学の専任の教授から構成されており、こうした教員団の構成と指導能力によって、学習者が、複雑な背景や文脈からなる課題に対して、様々な理論・技術・活動の再構成による新たな知見を獲得し(知識)、問題の解決に必要な様々な方策や技術及び知見の特定と、それらの組み合わせ・最適化・実践ができる(技能)、地域社会における政策提言及びプログラム運用を企画・調整・主導することができる(職務遂行能力)各学習アウトカムを達成する教育・実践的な体制は十分に確保されているといえる。これら研究者教員と実務家教員の協力によって、本資格教育プログラムの教員団は「地域社会の改革や発展のための計画やプログラムを責任をもって策定し、実行することができる」実践的能力を備えた協働社会の担い手を養成する本プログラムの目的と目標に沿った構成・内容をもっているといえ

る。

\*添付資料：自己点検評価書基礎データ(申請用)

### 5-2 教員・講師の指導能力

教員名	種別	担当科目	評価時使用欄
新川 達郎	第1号教員	キャップストーンⅠ、Ⅱ	
本多 幸子	第1号教員	キャップストーンⅠ、Ⅱ	
武藏 勝宏	第1号教員	キャップストーンⅠ、Ⅱ	
野田 遊	第1号教員	キャップストーンⅠ、Ⅱ	